

上智大学・外国語学部・英語学科
DEPT OF ENGLISH STUDIES
FACULTY OF FOREIGN STUDIES
SOPHIA UNIVERSITY

バイリンガリズムとバイリンガル教育
BILINGUALISM & BILINGUAL EDUCATION

坂本 光代

Mitsuyo Sakamoto

Spring 2020



バイリンガリズム & バイリンガル教育

Bilingualism & bilingual education

バイリンガルの定義
Definitions of bilinguals

バイリンガリズムに関する仮説
Hypotheses related to bilingualism

バイリンガルの言語発達
Bilingual language development

クイズ Quiz

ディスカッション Discussion



バイリンガルの定義

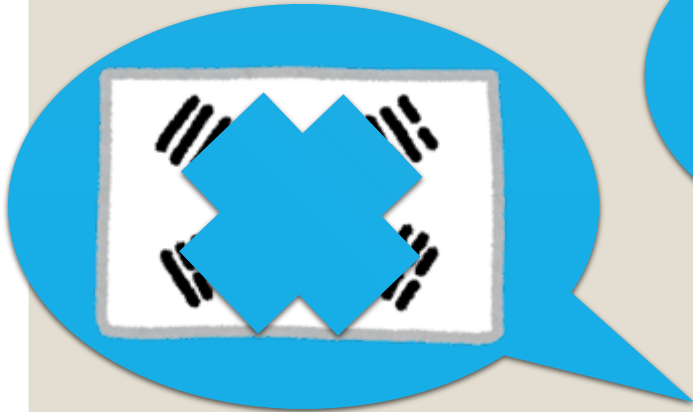
Definitions of Bilinguals



理想的なバイリンガル Ideal Bilinguals



セミリンガル／ダブルリミテッド Semilingual/Double-Limited



同時型・順次型 Simultaneous/Sequential



VS.



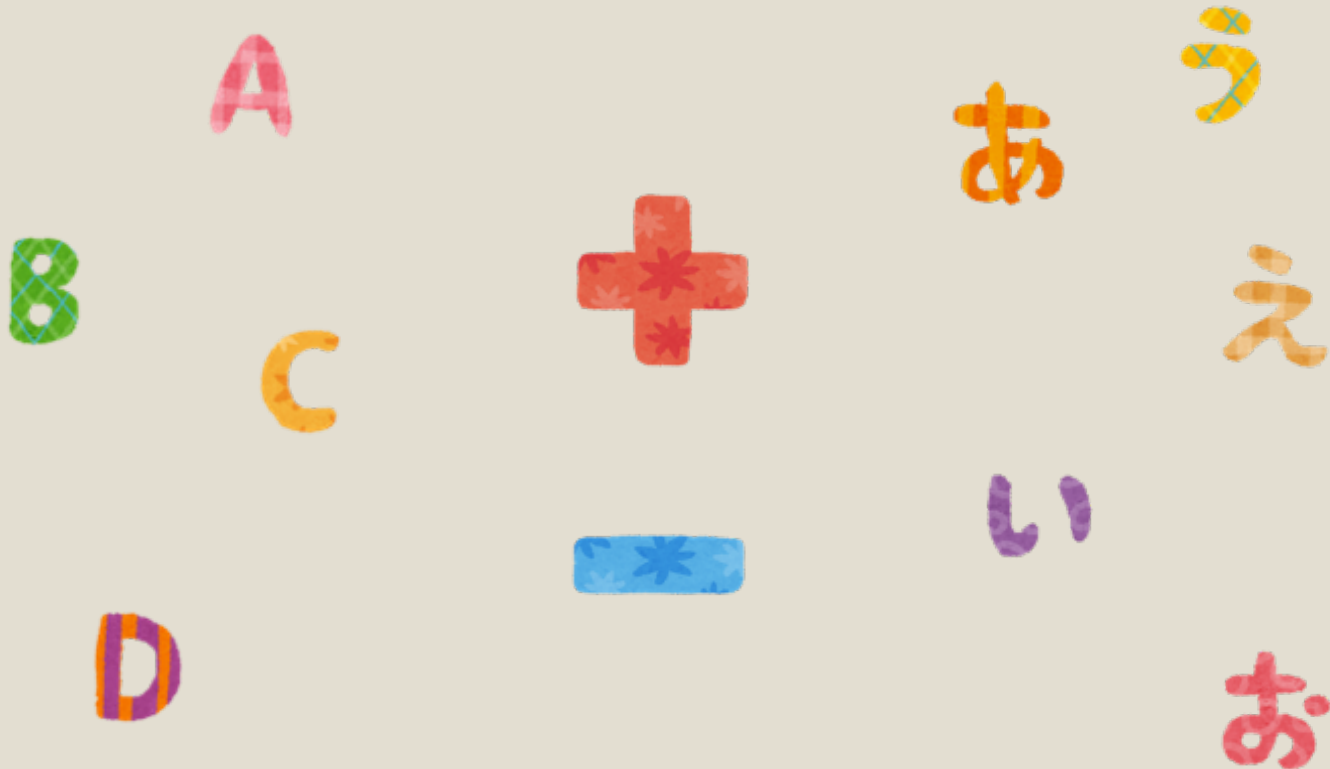
受容的・生産的 Receptive/Productive



VS.



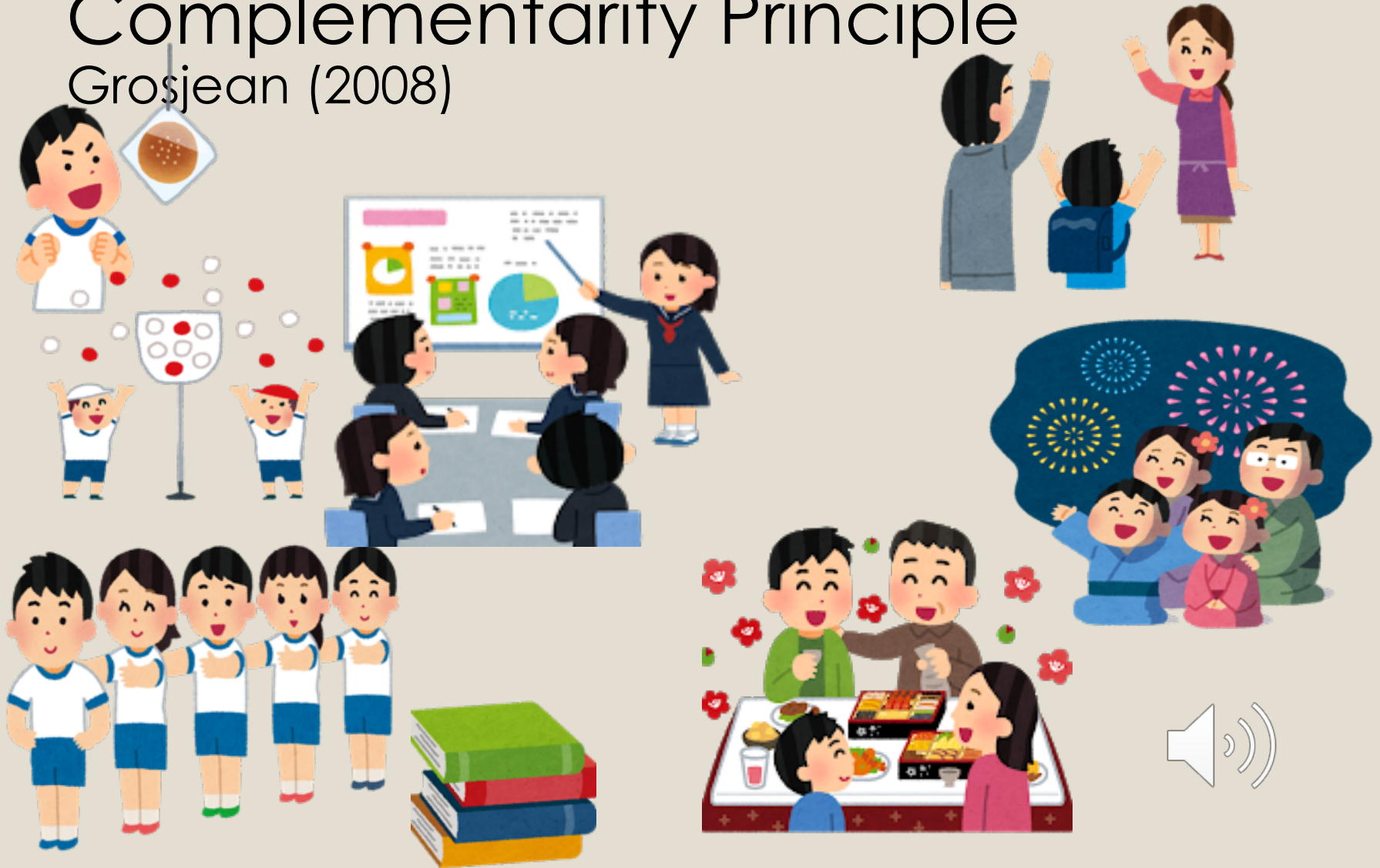
加算的・減算的 Additive/Subtractive



相補性原理

Complementarity Principle

Grosjean (2008)



多元能力


Multicompetence (Cook, 2016)



トランスランゲージング Translanguaging

Garcia & Wei (2014)



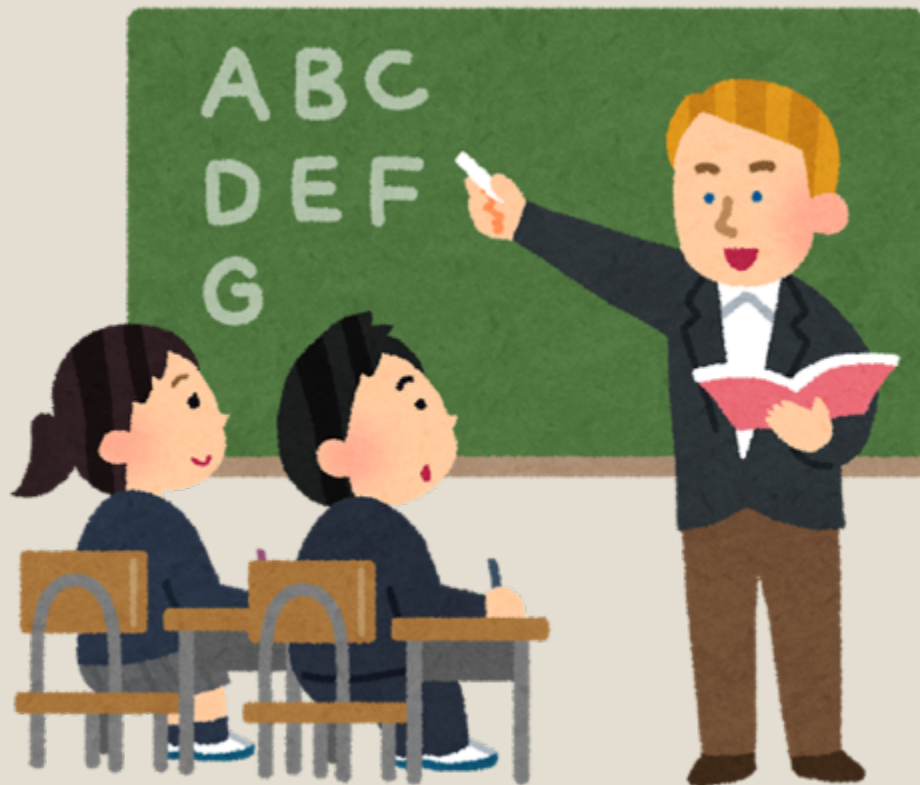


バイリンガリズムに 関する仮説

Hypotheses Regarding Bilingualism



最大エクスポージャー仮説 (Maximum exposure hypothesis)

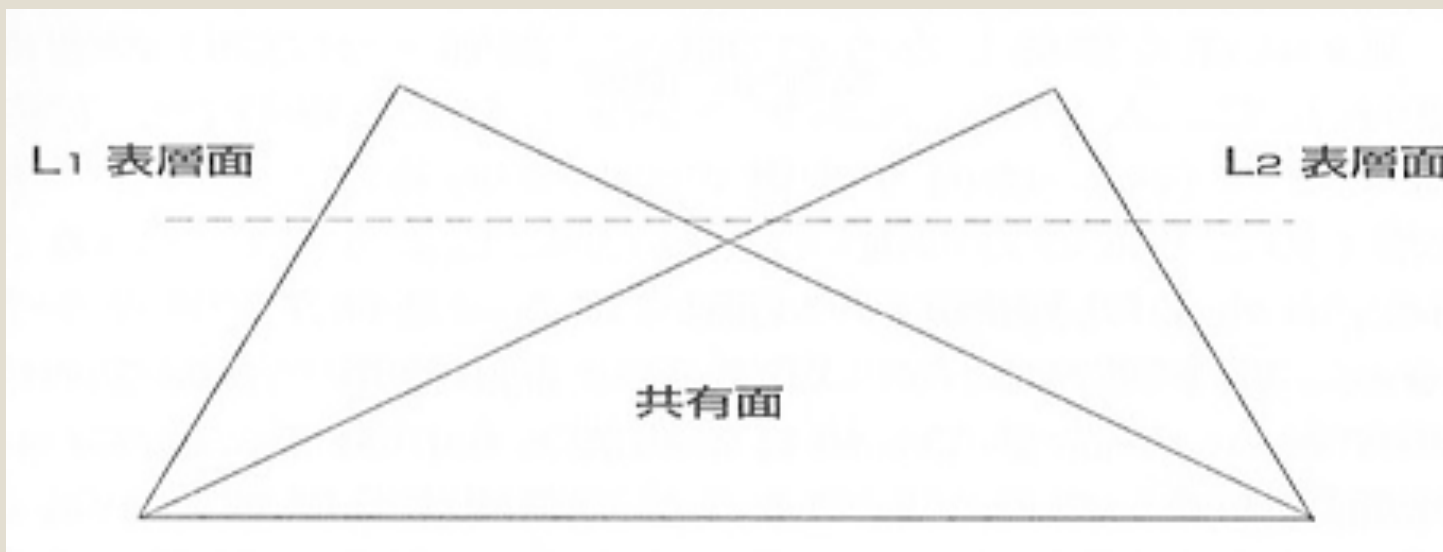


言語不適合仮説 (Linguistic mismatch hypothesis)



二言語相互依存説(冰山説)

Linguistic interdependence hypothesis (Iceberg model)



共通基底能力 (common underlying proficiency; 略してCUP)
>> **敷居仮説** (threshold hypothesis)
(Cummins, 2001, p. 174)



バイリンガルの言語発達

Cummins (2001):

認知・学力言語能力 (cognitive academic language proficiency; 略して**CALP**)

vs.

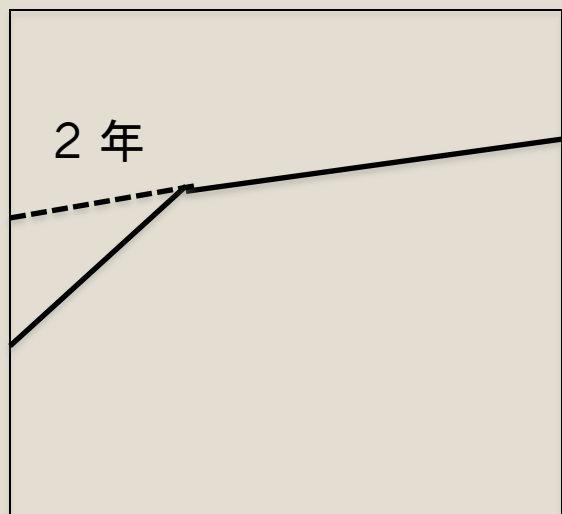
伝達言語能力 (basic interpersonal language skills; 略して**BICS**)



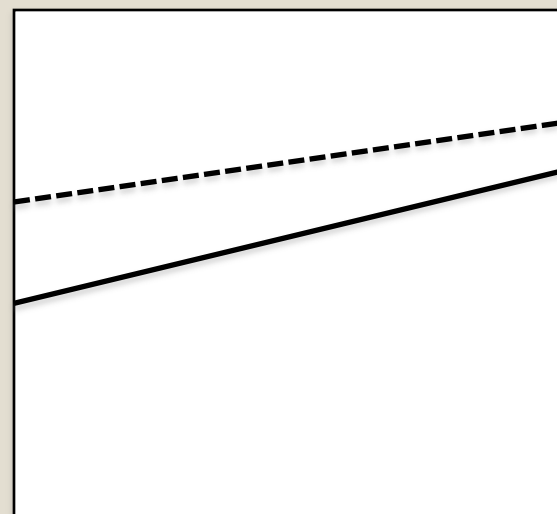
BICS vs. CALP

母語話者

非母語話者



BICSの発達



CALPの発達

>CALP習得には5年~7年、BICS習得は2年程度必要



クイズ Quiz

1. 発話・作文が出来るバイリンガル
= ○○的バイリンガル
2. 母語を喪失することなく第二言語を習得出来ること
= ○○的バイリンガリズム
3. 異質の言語でも認知的に共有している能力があり、
結果1つの言語を強化すると、もう片方の言語も強化されるとする仮説=二言語相互○○説・○○説
4. バイリンガル独自の言語システム
= ト○○○○○○○ー○○○
5. 言語能力は伝達能力BICS, 認知・学習能力○○○○
の二つに分けられる。



クイズ 答

Quiz answers

1. 発話・作文が出来るバイリンガル
= **生産的**バイリンガル
2. 母語を喪失することなく第二言語を習得出来ること
= **加算的**バイリンガリズム
3. 異質の言語でも認知的に共有している能力があり、
結果1つの言語を強化すると、もう片方の言語も強化され
るとする仮説 = 二言語相互**依存**説 / **氷山**説
4. バイリンガル独自の言語システム
= **トランスランゲージング**
5. 言語能力は伝達能力BICS, 認知・学習能力**CALP**の
二つに分けられる。

>6点満点中何点でしたか？



ディスカッション Discussions

1. 今まで外国にルーツのある人と交流したことがありますか？どこで、なぜ交流しましたか？その時の自分の接し方（言葉使い、態度、配慮等）はどんなでしたか？
2. マイノリティの人と接する際、どの様な点に留意すべきでしょうか？
3. 日本において、どの様な学校・社会を作ればマイノリティの母語と第二言語習得、母文化と日本文化の知識を伸ばすことが出来ると考えますか？
4. 3を実現するにあたって、日本社会にはどの様な課題があり、どの様に対処すべきですか？個人で出来ることはどのようなことがありますか？



ありがとうございました！ Thank you!

ご参加いただき

ありがとうございました！

Thank you for your participation!

今日の講義を通じて、バイリンガルの実情、そして課題に関して少しでも興味を持っていただけたら嬉しく思います。

I hope this mini-lecture gave you a glimpse of what bilinguals experience and have inspired you to learn more about them!



著書紹介

Recent publication

昨年ハワイ大学近藤ブラウン妃美先生、
お茶の水大学西川朋美先生と
くろしお出版よりこちらを刊行しました。
宜しければ是非ご覧ください。

Last year Dr. Kimi Kondo-Brown
(University of Hawaii), Dr. Tomomi
Nishikawa (Ochanomizu University)
and I published this book from
Kurosio Publisher.
I hope you find it interesting.



生憎2020年度はサバティカルで授業は
担当しませんが、来春お会いしましょ
う！

Unfortunately I am away on my
sabbatical in 2020 but will be back
in spring 2021 – looking forward to
meeting you then!